

北海道における 工手学校の卒業生たちの仕事について 角幸博先生に聞く

工手学校の卒業生たちのめざましい活躍は
開拓使時代以降の北海道各地で開花した。
この地に刻まれた多くの工手学校卒業生たちの
系譜について、北海道の近代建築史研究をされている
北海道大学名誉教授の角先生にお話を伺った。



聞き手：平井充（工学院大学非常勤講師）
於：2012年10月31日、れきけん建築アーカイブ・事務所にて取材



角 幸博 KADO Yukihiko

北海道大学名誉教授、特定非営利活動法人歴史的・地域資産研究機構代表理事。札幌市文化財保護審議会会長、北海道文化財保護協会副会長。1947年札幌生まれ。1970年北海道大学工学部建築工学科を卒業後、助手、助教授、教授を経て、2012年3月退職。専門は近代建築史。北海道の近代建築史研究のほか、長年サハリン州の樺太時代の建築調査や歴史的資産を活かしたまちづくりにたずさわる。主な著書に、『函館の建築探訪』（1997）、「札幌の建築探訪」（1998）、「旭川と道北の建築探訪」（2000）、「道南・道央の建築探訪」（2004）、「道東の建築探訪」（2007）ほか多数。

工手学校の卒業生の仕事

平井 今日、北海道において工手学校の卒業生がどのような役割を果たしていたのかということについて、北海道の建築史について最も詳しい角先生にお伺いしたいと思います。まずは、工手学校の卒業生たちは当時、北海道においてどのような仕事に関わっていたのでしょうか。

角 いま北海道建築人名事典のようなものをつくっていて、そのなかで工手学校の出身者をピックアップしてみたら幾人か出てきました。まず相浦源六（第23回生）という人は、北海道庁にいて建築のトップだった福岡五一と、曾禰中條建築事務所出身の三戸義夫とともに3人で技師をしていたようです。次に大槻啓一郎（工手学校予科を卒業し大正6年に中退）さんは、小樽市役所時代に新栄保育園、手宮保育園増築などを担当していたようです。小島碩次郎（第23回生）さんは、旭川市役所時代に小学校の不燃化事業をやっている、大有小学校や中央小学校、啓明小学校などに関わっています。しかし、役所勤務時代というのは、なかなか担当

したものがないんです。このように基本的に北海道ではお役人が多いですね。小南武一（第67回生）さんも最初は函館市の役人でしたからね。しかし、函館の村木兄弟（喜太郎は不明、喜三郎は第26回生）や木田保造（第34回生）みたいな民間の人もいます。しかも、北海道のRC造は殆ど木田さんなんです。函館の重要文化財になった東本願寺が彼のデビュー作で、それから昭和初期に札幌の街中にもRC造が次々とできていくのですが、これは全て木田さんがつくったものです。木田さんは、北海道のRC造の工事を牽引していった第一人者です。残念ながらその後、木田建業になって倒産してしまうことになったので、資料が無いんです。

開拓使後の北海道

平井 当時、北海道に工手学校を卒業した技術者が送られて来た歴史的背景とはどのようなものだったのでしょうか。卒業後すぐに北海道に来たのでしょうか。

角 相浦さんは佐賀県出身なのに、卒業後すぐに道庁に来ています。安積久助（第

20回生）さんは、文部省時代に北海道にきてそのままいました。それは、やはり仕事があったからだと思います。明治から大正期にかけて、北海道で技術者として牽引していたのは、北海道帝国大学の営繕や官公庁営繕、国鉄、営林局、逓信省などの大きな組織でした。北海道で民間が仕事をできるようにしてきたのは田上義也先生※1が出てくるあたりからで、民間の建築にしても官庁営繕の方が協力してつくる例もありました。札幌グランドホテルは、最初は商工会議所でしたが、そこに併設してホテルを入れるという理由で、北海道庁が設計をしているんです。今では民間の建築を官庁がつくることは考えられないですが、そういう風潮があったんだと思います。

平井 北海道では開拓使の関係上、官主導の流れが今も残っていると聞かれます。当時はもっとその傾向が強かったと思いますが、札幌と函館も基本的に一緒なのでしょうか。

角 函館の場合もやはり大火復興などは官主導ですね。しかし、今残っている建物



北海道帝国大学工学部 / 1923年
(田中豊太郎)



北海道大学古河記念講堂 (旧東北帝国大学農科大学林学科教室) / 1909年
(新山平四郎)

をよくみると棟梁だったような人たちが設計したものが残っています。そういう意味で札幌よりは、函館のほうが旦那衆の力が強かったということが言えます。だから函館区公会堂なんかも渡島支庁より上の良い場所に建っているんです（笑）。それに対して、札幌ではやはり官庁の方が強く、いい建物が官に多くあります。それは開拓使時代から札幌本庁をつくるなど、歴史的な背景がすごくあるんじゃないかなと思います。

中心的役割を担った 工手学校の卒業生

平井 北海道の技術者には帝大出身者はどの程度いたのでしょうか。工手学校の卒業生は、もともと帝大出身者のアシスタントの養成のためにつくられたのに北海道ではなぜか帝大出身者と同じような立場で仕事をしている人が多いんです。

角 帝大出身者は小樽などで日銀とかやっていますが、多くは中央で設計してるわけですよ。たぶん、帝大出身者は東京や関西の中央官庁で忙しかったので、殆ど行く先が決まっていた。地方都市はそういう人たちが少なかったのが工手学校の人たちが行ったんだと思います。また、工手学校は卒業生の数も圧倒的に違いますからね。それに地方出身者がけっこう多かったと思います。勉強しようと思う人は当時、工手学校へ行くわけです。面白いのは、例えば田中豊太郎（第2回生）という人物がいます。

※1 北海道最初のフリーアーキテクト。帝国ホテル建設時にF.L.ライトに学び、のちに北海道に渡って活躍。エジライトと呼ばれた。

彼なんかは北大の工学部の設計監督をしているんです。そういう意味で他の人よりは、それなりの仕事をしてた人だと思います。新山平四郎（第2回生）という人物も、帝大系の仕事をやっていた、北大にいま残っている林学科教室や小樽商大を設計しています。彼は、中條精一郎の事務所に勤めた後、北大のキャンパスに携わっていた人物です。面白いのは、林学科教室のランマが林の字になっていたり、ドアの腰パネルにもよく見ると林が入っていて、これが有名なんです。当時でも、そんな遊びはなかなか許されなかったはずなので、ユーモアに溢れたデザイン力のある人だったんだと思います。

函館で活躍した卒業生

平井 村木兄弟、木田保造、小南武一の3人が函館において果たした役割についてはいかがでしょうか。

角 村木さんは、お父さんが新潟県出身で15才のときに大工の徒弟になっています。その後、函館の高龍寺のために師匠と一緒に函館に来ています。そして、その4年後に独立が許されました。長男の喜太郎は工手学校を卒業して、宮内省匠寮に務めて静岡御用邸の建築監督になりました。しかし、その後函館へ戻って32歳で亡くなっています。喜三郎はそのまま親の仕事を継いでいますが、どっちかという民間の商店や邸宅が多かったようです。才覚があったのでしょうか。

木田さんはゼネコンの社長ですね。あの大熊喜邦博士とコラボして東京で深層地業などをしてたようです。木田さんが北海道に来る前にやっていた大きな仕事は、銀座松屋です。また、函館では元町のカトリック教会もそうですね。もともとレンガ造だったのが被災したので、それにRC造の補強をして今のかたちになっています。木田さんはゼネコンを組織しながらどのように設計をやったのか、なかなかわからないところが多いんです。

小南さんは、やはりRC造の建物を復興でつくっていく中心的人物でしょうね。この頃、函館に三戸義夫、小南武一、荒木善三郎（第67回生）という三人が中條精一郎の事務所から来ています。函館市から中條さんが懇願されたんです。小南さんは20代な訳ですから、最初はたぶん三戸義夫が設計をして、小南さんが現場監督をしながら技術を吸収し、次のステップに行くという、そういうシステムがちゃんと出来ていたんじゃないかなと思うんです。もちろん、中條精一郎から推薦があって行くぐらいだから、かなり秘められた力があってと思います。

工手学校の教育が開花した北海道

平井 田上義也さんのような建築家に比べると工手学校の卒業生というのはエンジニア色が強い人たちだったのでしょうか。

角 そうですね。やっている仕事もある一線というか、官庁系の仕事が多いんです。それに対して、田上さんのような建築家たちは、

	西暦	1860	1870	1880	1890	1900	1910	1920	1930	1940	1950	1960	1970	
	和暦	江戸	明治			大正		昭和						
氏名	和暦	卒回	3	13	23	33	43	9	5	15	25	35	45	
新山平四郎	2	1869 厚城生れ			卒業		退学							北大の手科講堂、林学科教室、畜産科講堂、旧小樽高等商業学校本館
田中豊太郎	2	1877大野生れ			卒業			退学						北大工学部、日本赤十字社旭川病院
相浦源六	23	1879住吉生れ				卒業	退学							余市町役場、由仁町庁舎
村木喜太郎	不明	1880函館生れ				卒業	退学	1911						旧函館区公会堂、小林写真館
安積久助	20	1881厚城生れ				卒業		退学	1923					不明
小島碩次郎	23	1880静岡生れ				卒業		退学						旭川の新北門小学校、中央小学校、豊明小学校
村木喜三郎	26	1892函館生れ					退学		退学	1928				旧函館区公会堂、函館海産商同業組合事務所、小林写真館、旧稚北海道農公社
木田保造	34	1895千原生れ					卒業	退学		退学	1940			真宗大谷派函館別院、元町カトリック教会、旧今井百貨店函館支店、金森洋服店、谷屋百貨店など
石村政吉	48	1893山口生れ						卒業	退学					不明
小南武一	67	1892兵庫生れ						卒業	退学				1976	函館市立函館校本館、旧函館市青年会館、函館市立衛生小学校、大正道徳記念館書庫など
荒木善三郎	67							卒業	退学					函館の新川尋常高等小学校
竹下茂	69							卒業						五島軒本店
大槻啓一郎	退学	1897札幌(紀田郡)生れ						退学	退学					小樽の真栄保育園、手宮保育園建築
岡田哲郎	退学	1911函館生れ						退学	退学					旧自費商店、石川啄木の墓

その隙間を縫って仕事をしています。つまり、官公庁の人たちの手が回らないところを上手に落ち葉拾いして実績をあげてきました。それまで建築家という職能が民間の人たちに知られていなかった。そういうところに刺さり込んで、そして仕事をちゃんとしていくという、そういう風潮をつくっていったということです。北海道の建築文化の形成は、たぶんその両輪だったんだと思います。例えば、田中豊太郎の場合、日本赤十字社旭川病院や北大工学部の建物などをやっていて、彼の前身をみていくと面白いんです。大蔵省の技手をやっているのですが、その前は陸軍省の製図工だとか、それなりのきちんとした経歴なんです。北海道では、この陸軍絡みの仕事をした人たちのなかに工手学校を卒業した人たちが結構いるんです。たぶん、第七師団が旭川にあったからだと思っています。

平井　工手学校の卒業生は、北海道における近代の建築史のなかでどのような位置づけだったのでしょうか。

角　工手学校の卒業生たちが、いまこうやって経歴がわかるということは、それなりに業界で功を上げた方々だと思います。当時の北海道で建築に関わってきた人たちを3000人くらい拾ったんですが、10行とか20行とか経歴を書ける人というのはなかなかいないんです。つまりその人物に関わる資料がそれなりにあるということなんです。逆に考えると、この工手学校を出た方々の足跡というか、仕事の意味というのは凄く重要だったんだと思います。当時は札幌に工業高校があったんですが、帝大を出た人たちは少なかったようです。そういうことから考えても工手学校

の卒業生たちは、しっかりと専門教育を受けた人たちだったということですね。逆にいうと田上義也さんなんかは、早稲田の工手学校（夜間）に通っているけど半分くらいは独学です。そういう意味で、システムとしての建築を学んで来た人たちが、北海道のなかで仕事をしていくというのは、重要な役割だったんじゃないかと思います。それはやはり建築教育に関わるところなんだと思います。

NPO法人歴史的地域資産研究機構「れきけん」とは

平井　そういった研究が進むと、また新しい発見がありそうですね。そして工手学校の卒業生たちがつくってきたものが、今後も町並みに寄与していつて欲しいと思います。ところで、いま角先生が大学を退職されてから活動されている「れきけん」とは、そのような文化遺産を保存活用していこうというグループなんですよ。具体的には、どのような活動をしているのですか？

角　北海道におけるそういった歴史的地域遺産の保存活用からアーカイブ活動と道内の研究者や専門家の能力をネットワーク化、そして調査・研究・評価の作業、改修工事への助言や専門的判断なんかを中心に活動しています。それから兄弟グループで建築ヘリテージサロンというのも僕が代表をしています。そこのメンバーは職人さんたちが中心です。きっかけは、以前に札幌市資料館（旧札幌控訴院）の建物を維持管理するためにどうしたらいいか、とある会社から話があったことです。僕も歴史的建造物の価値は言えるけど、どうやって修復するのかという技術的

なことはわかりませんでした。そのときいろいろな職人さんたちに協力していただきました。その後、これだけでもったいないということになり、また将来的に仕事に結びつけてもいいということで、そのときのメンバーで情報交換をしています。いまでも古い建築物の改修工事の技術的な助言を頼まれたときなど、職人さんたちに相談するとスケッチをサッと描いてくれたりしてとても助かります。

また、北海道では歴史的建造物の保存活動をしている団体がいくつかあるのですが、今まで横のつながりが無いまま、みんな同じような悩みをもっていたんです。この前、そういった団体を集めて会議をしました。やはり建物を残そうとしたとき、みなさん不安なんですよ。僕はいつも価値の中には思い入れ価値というのがあると言ってるんです。それは誰か一人でもこれを残したいとか、大事だよねって思ったらもうそれで十分価値がある。それをどれだけ広めていけるかというときに僕たちの「れきけん」が評価をしてあげたり、修復したいと相談されたときに建築ヘリテージサロンの職人を紹介してあげたりします。それはあくまでも客観性がないといけなくて、またよそ者ではなく地元の人たちが手を携えて残していくのが一番いいんです。そういうお手伝いをしていこうと考えています。

平井　これからはそういった技術や価値の継承が、再び北海道の文化を守っていくことになりますね。現代の技術者にとって、古いけれども新しい技術、そういったものがこれからもう一度、必要な時代になってきたというのが興味深いです。今後の活躍を期待しております。今日は貴重なお話をどうもありがとうございました。



小樽商科大学（旧小樽高等商業学校本館）1912年（新山平四郎）



日本赤十字社旭川病院／1923年（田中豊太郎）

小樽市立函館校本館、旧函館市青年会館

函館市立衛生小学校、大正道徳記念館書庫など

真宗大谷派函館別院、元町カトリック教会、旧今井百貨店函館支店、金森洋服店、谷屋百貨店など

旧函館区公会堂、函館海産商同業組合事務所、小林写真館、旧稚北海道農公社

余市町役場、由仁町庁舎

旧函館区公会堂、小林写真館

旭川の新北門小学校、中央小学校、豊明小学校

真宗大谷派函館別院、元町カトリック教会、旧今井百貨店函館支店、金森洋服店、谷屋百貨店など

函館市立函館校本館、旧函館市青年会館、函館市立衛生小学校、大正道徳記念館書庫など

函館の新川尋常高等小学校

五島軒本店

小樽の真栄保育園、手宮保育園建築

旧自費商店、石川啄木の墓

旧函館区公会堂、小林写真館

旭川の新北門小学校、中央小学校、豊明小学校

真宗大谷派函館別院、元町カトリック教会、旧今井百貨店函館支店、金森洋服店、谷屋百貨店など

函館市立函館校本館、旧函館市青年会館、函館市立衛生小学校、大正道徳記念館書庫など

函館の新川尋常高等小学校

五島軒本店

小樽の真栄保育園、手宮保育園建築

旧自費商店、石川啄木の墓

旧函館区公会堂、小林写真館

旭川の新北門小学校、中央小学校、豊明小学校

真宗大谷派函館別院、元町カトリック教会、旧今井百貨店函館支店、金森洋服店、谷屋百貨店など

函館市立函館校本館、旧函館市青年会館、函館市立衛生小学校、大正道徳記念館書庫など

函館の新川尋常高等小学校

五島軒本店

小樽の真栄保育園、手宮保育園建築

旧自費商店、石川啄木の墓

旧函館区公会堂、小林写真館

旭川の新北門小学校、中央小学校、豊明小学校

真宗大谷派函館別院、元町カトリック教会、旧今井百貨店函館支店、金森洋服店、谷屋百貨店など

函館市立函館校本館、旧函館市青年会館、函館市立衛生小学校、大正道徳記念館書庫など

函館の新川尋常高等小学校

五島軒本店

小樽の真栄保育園、手宮保育園建築

旧自費商店、石川啄木の墓

旧函館区公会堂、小林写真館

旭川の新北門小学校、中央小学校、豊明小学校

真宗大谷派函館別院、元町カトリック教会、旧今井百貨店函館支店、金森洋服店、谷屋百貨店など

函館市立函館校本館、旧函館市青年会館、函館市立衛生小学校、大正道徳記念館書庫など

函館の新川尋常高等小学校

五島軒本店

小樽の真栄保育園、手宮保育園建築

旧自費商店、石川啄木の墓

architectural development in Hokkaido, mainly in the city of Hakodate. Kisaburo, the younger of Muraki brothers was mainly involved in the architectural projects in the private sector. Kado believed that he must have a superb commercial insight as well as designing talent. Kida was a pioneering general contractor in Hokkaido. Nevertheless, how he was involved in the design works while managing his company is still mostly unknown. Konami played a major role in Hakodate's resurrection from the severe damage caused by several big fires by taking initiatives in the RC-structured buildings.

Quite interestingly, many graduates of the Polytechnic did great jobs both in the public and private sectors. Trained as hands-on engineers, their achievements were quite on par with those of the

graduates of the Imperial Universities.

By investigating the historical archives, Kado found it relatively easy to retrieve the achievements of the Polytechnic graduates, which is a clear proof how important their roles were during the modernization of the architecture. It was because, Kado thought, they were systematically trained in the school.

Kado revealed his commitment to contributing to the preservation and utilization of the historical assets found in the local communities in Hokkaido through the activities of the Institute for Historical Local Asset Studies.

Finally, Hirai and Kado agreed with each other that the inheritance of the techniques and values would protect and preserve the architectural culture unique to Hokkaido.